

アイデイトロール錠 10mg 使用上の注意変更のお知らせ

拝啓、時下益々ご清祥の段お慶び申し上げます。

平素は弊社製品に対し格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

この度、弊社製品であるアイデイトロール錠10mgの使用上の注意を下記のとおり自主改訂致しましたのでご連絡申し上げます。今後のご使用に際しましては、新しい〔使用上の注意〕をご参照下さいますようお願い申し上げます。

敬具

記

- ◆「禁忌」の(13)を削除し、現行の(14)を(13)に繰り上げます。(部削除)

改訂後	現行
【禁忌（次の患者には投与しないこと）】 (1)～(12) 【略】 (13) リザトリブタン安息香酸塩を投与中の患者（「相互作用」の項参照）	【禁忌（次の患者には投与しないこと）】 (1)～(12) 【略】 (13) チオリダジンを投与中の患者（「相互作用」の項参照） (14) リザトリブタン安息香酸塩を投与中の患者（「相互作用」の項参照）

- ◆「相互作用 併用禁忌」の項を下記のとおり改訂致します。(部削除)

改訂後			現行		
併用禁忌（併用しないこと）			併用禁忌（併用しないこと）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
			チオリダジン（メレリル）	チオリダジンの血中濃度が上昇し、作用が増強する可能性がある。	本剤がチオリダジンの肝代謝を阻害することが考えられている。
リザトリブタン安息香酸塩（マクスルト）	リザトリブタンの消失半減期が延長、AUCが増加し、作用が増強する可能性がある。本剤投与中あるいは本剤投与中止から24時間以内の患者にはリザトリブタンを投与しないこと。	相互作用のメカニズムは解明されていないが、本剤がリザトリブタンの代謝を阻害する可能性が示唆されている。	リザトリブタン安息香酸塩（マクスルト）	リザトリブタンの消失半減期が延長、AUCが増加し、作用が増強する可能性がある。本剤投与中あるいは本剤投与中止から24時間以内の患者にはリザトリブタンを投与しないこと。	相互作用のメカニズムは解明されていないが、本剤がリザトリブタンの代謝を阻害する可能性が示唆されている。

- ◆「相互作用 併用注意」の項を下記のとおり改訂致します。(改訂箇所のみ抜粋 部追加、部削除)

改訂後			現行		
併用注意（併用に注意すること）			併用注意（併用に注意すること）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
交感神経系に対し抑制的に作用する他の薬剤 レセルピン、β遮断剤(チモロール等の点眼剤を含む)等	交感神経系の過剰の抑制(徐脈、心不全等)をきたすことがあるので、減量するなど慎重に投与すること。	相互に作用(交感神経抑制作用)を増強させる。	交感神経系に対し抑制的に作用する他の薬剤 レセルピン等	交感神経系の過剰の抑制(徐脈、心不全等)をきたすことがあるので、減量するなど慎重に投与すること。	相互に作用(交感神経抑制作用)を増強させる。
【略】			【略】		
クラスI抗不整脈剤 ジソピラミド、プロカインアミド、アジマリン等 クラスIII抗不整脈剤 アミオダロン等	過度の心機能抑制(徐脈、心不全等)があらわれ、心停止/洞停止に至る可能性があるため、減量するなど慎重に投与すること。	クラスI抗不整脈剤は陰性変力作用及び陰性変時作用を有する。β遮断剤もカテコールアミンの作用を遮断することにより心機能を抑制するため、併用により心機能が過度に抑制される。	クラスI抗不整脈剤 ジソピラミド、プロカインアミド、アジマリン等	過度の心機能抑制(徐脈、心不全等)があらわれ、心停止/洞停止に至る可能性があるため、減量するなど慎重に投与すること。	クラスI抗不整脈剤は陰性変力作用及び陰性変時作用を有する。β遮断剤もカテコールアミンの作用を遮断することにより心機能を抑制するため、併用により心機能が過度に抑制される。
麻酔剤 セボフルタン等	反射性頻脈が弱まり、低血圧のリスクが増強することがある。また、過度の心機能抑制(徐脈、心不全等)があらわれ、心停止/洞停止に至る可能性がある。陰性変力作用の小さい麻酔剤を選択すること。また、心筋抑制作用を有する麻酔剤との併用は出来るだけ避けること。	麻酔剤により低血圧が起こると反射性の頻脈が起こる。β遮断剤が併用されていると、反射性の頻脈を弱め、低血圧が強められる可能性がある。また、陰性変力作用を有する麻酔剤では、相互に作用を増強させる。	麻酔剤 エーテル等	反射性頻脈が弱まり、低血圧のリスクが増強することがある。また、過度の心機能抑制(徐脈、心不全等)があらわれ、心停止/洞停止に至る可能性がある。陰性変力作用の小さい麻酔剤を選択すること。また、心筋抑制作用を有する麻酔剤との併用は出来るだけ避けること。	麻酔剤により低血圧が起こると反射性の頻脈が起こる。β遮断剤が併用されていると、反射性の頻脈を弱め、低血圧が強められる可能性がある。また、陰性変力作用を有する麻酔剤では、相互に作用を増強させる。
【略】			【略】		
フィンゴリモド	フィンゴリモドの投与開始時に本剤を併用すると重度の徐脈や心ブロックが認められることがある。	共に徐脈や心ブロックを引き起こすおそれがある。	【記載なし】		